武田 信玄 左半分へ

本日は座席指定

二択です!

お縁右半分へ





課題内容も異なります!

流星光底逸長蛇 遺恨十年磨一 **晚見千兵擁大牙** 鞭声肅々夜過河

## 漢詩/二挑戦!

旗 夜河を渡る 鞭声粛々 (べんせいし 暁に見る千兵の大牙(大将の を擁するを ゅ

流星光底逸長蛇 遺恨十年磨一 **晚見千兵擁大牙** 鞭声肃々夜過河 剣

長蛇を逸す 流星光底(りゅうせいこうてい) 遺恨なり十年一剣を磨き

遺恨十年磨一 流星光底逸長蛇 晚見千兵擁大牙 鞭声肅々夜過河 剣

遺恨十年磨一 流星光底逸長蛇 **晚見千兵擁大牙** 鞭声肅々夜過河

上杉謙信側の視点から川中島の合戦を描く 江戸時代の儒学者 頼山陽の漢詩

鞭声肅々夜過河

遺恨十年磨一剣曉見千兵擁大牙

流星光底逸長蛇 謙信の軍は軍馬にあてる 鞭の音も

のばせて、夜千曲川を渡 る

信玄軍は暁の霧の晴れ が大将旗を翻 して目前にあること 間に上杉軍

に驚愕

0 日 0 た めに十年磨 いた名 力で、

敵 の信玄に斬りつけながら に長蛇の如き悪者を逃して は、 まこと遺恨なり

まずは、戦のまっただなかへ御案内します。

川中島合戦図屏風

小手調べ、行きます。

けなしてる~

やる気のなさが みなぎってる



頭のコッチコチ

# 然体でのびやか

天女の衣は縫い目が無いのさ

ほめてる~



迷子の羊が見つかんない

学問も枝分かれしすぎちゃいけないね けなしてる



晴れてよし

雨もまたより

絶景かな絶景かな

ほめてる~

|      | ほめてる | けなしてる |
|------|------|-------|
| 惰気満満 |      | 0     |
| 石部金吉 |      | 0     |
| 天衣無縫 | 0    |       |
| 多岐亡羊 |      | 0     |
| 晴好雨奇 | 0    |       |

### 本論です。

## 謎 1

## なぜ、こんなに有名なの?

勝負つかなかったし その後の歴史を 大きく動かしたわけでもないのに。



| 第1回 | 1553年8月      |
|-----|--------------|
| 第2回 | 1555年7月-閏10月 |
| 第3回 | 1557年7-8月    |
| 第4回 | 1561年9月10日   |
| 第5回 | 1564年7-8月    |

## なぜ、同じ場所で5回も 戦ったの?

## 不思議だ。

戦場の外のほうがむしろ、かしましい。

# 謙信のPR戦略



## 弘治二年(1556)六月二十八日 上杉謙信の書状 歴代古案

だところ、 た は 二度にわたって信濃へ進攻した 投げうって和睦し馬を納めたの 頭を下げてきおったので、 村上・高梨らの諸士が頼ってき のを見捨てられなかったからだ 信玄めに 敵は 興亡の一戦を挑ん 困って今川を通じ 万障 0 0

や

上杉1

弱者を 助 め

度 信濃 進 攻

は 村 高梨ら 諸 かゞ 頼 き

信玄め 興亡 0 戦を挑

聞かせよ

見捨

な

か

た

か

だ

0

を下げ 敵 き は お 困 た を通 障

なに申し

)馬を納 め た 0

川義元に頼んで和睦 ソ。 睨み合いのまま動ける व

戦の趣旨説明

上杉1

弱者を 助 け め

戦の趣旨説明

進

攻

は みなに申し聞かせよ 度 村

趣旨(義による戦だ)と

(ウソ)を公開書 信濃

挑

か

だ

0

き

興 困 諸 な 馬を た か 今 から 頼

を通

納 め た

義元に頼んで和睦

た。

のまま動

व

障

 $\mathcal{O}$ 

上杉謙信の願文

弘治三年(1557)正月二十日 歴代古案

神社仏塔を破壊して人々を悲 信 田 信玄が乱入して諸士を滅ぼ 濃へ出兵致しますの て見捨て難い ております 神 は非礼を受けずと申します 0 を、 からに他なり 隣国 は、 0 佞 国主と 臣武

ませる 国 の御加護などありましょうや 務を奪うために故なく諸家を悩 ておる信玄め に、どうして

佞 臣 国を救う ね ため ん =悪者 に出兵する 0 乱暴か 説明

信 田 濃 信 お ŋ ま 破壊 す 致 ま 諸 す 隣 一を滅ぼ は 国 ク を悲 0 国 佞

め 見 神 捨 は 非 難 礼を受 か け ず 他 申 な h

ませ 国 務 を奪う 加護などあ お 信玄 た め りま め 故 諸家を 悩

隣 佞 臣 国を救う ね ため ん =悪者 に出兵する 0 乱暴か 説明

信 濃 致 ま す は 佞 戦

趣

田 信 お ま 破壊 す 諸 隣 一を滅ぼ 国 ク を悲  $\mathcal{O}$ 国

ŋ

め 見 神 捨 非 難 礼を受 か け ずと申 他 な h

国 務 を奪う 諸家を 悩

せ 絈 様は ませ 6 な無礼なヤツは

せ 御 護などあ ŋ ま ようや

悩

信 玉 田 濃 務 信 神仏の加護が確実し れることを 致 顛 文にてPR ま 諸 す V) は 滅 諸家を 申 悲 ぼ 国 佞

佞 臣 を救う ね ん 悪者 出兵する か

こでも義戦だと趣旨説明

### 謙信のPR戦略の特徴

書状や願文を公開し、 武田の非道ぶりと信濃派兵の正義は 自分にあることを大々的にPR



### 謙信のPR戦略の特徴

書状や願文を公開し、 武田の非道ぶりと信濃派兵の正義は 自分にあることを大々的にPR



### 受けて立った信玄公

# 信玄のPR戦略



## 武田信玄書状

永禄元年(1558)閏六月十九日

文永寺文書

安養寺と文永寺の二つのお寺を再

興することにつきましては、すで に天皇のご命令も拝領致しま

ん。 以上、さらさら異議はございませ が、なにぶんにも戦国の 世

ことでございますので、来る秋

越後勢と決戦を遂げまして勝

したならば、きっと着手

致しましょう。

安養寺と文永圭 のででございま ならさら ないま

> なんで上杉との戦に勝たな いとお寺の修理ができない の? 信玄さん

> > ま

た

ま

せ

VJ

す

で

わ

寺を再

来る秋に国の世の

す

戦を遂 たならば、 げ ま きっと着手 勝 利

越

後勢と

決

致

ま

よう。

ま

武田1

致得越ん以に興安し、新手法と、上天す養

領国のすみずみ(伊那)まで合戦への関心を高めようとした

ならながないで上杉といるがは、

**5** °

き

なんで上杉との戦に勝たないとお寺の修理ができないの? 信玄さん

武田2

## 戸隠神社に宛てた武田信玄の願文 永禄元年(1558)七月 戸隠神社文書

濃 た ば に迷いて後に得ん、 始 必ず得る か の十二郡が いう卦 越 め 占 ることが吉かどう 後と甲州 ころ、 ま から 君子 出ま 7 た 私 いう意であ 往 0 7 の存分に従う た。 ころ、 和 0 睦 と 7 を いう意で ろ りま 有り す

一つりと・・・・・

戦を始めることが吉かどうかを占 信濃の十二郡が私の存分に従うか あります。よって、今信濃に居を 先に迷いて後に得ん、という意で また、越後と甲州の和睦を破って けば必ず得るという意であります た。これは、君子往くところ有り、 三という卦が出ました。これは どうか占いましたところ、升 のものになるでありましょう。 ば、今年じゅうに一国が したところ、坤の卦が出ま 0 往 九

信 あ 濃 た ば ま 始 t ば 必 か  $\mathcal{O}$ す 越 ず め た 0 得 後 る は 年 郡 後 な る から ま 君 出 ろ 甲 から 7 ま た 私 ゆ と 0 意 存 た ろ、 なんで神様に向かって 0 分 占いの説明なんか、 あ 従 いっしょうけんめいし 信玄さん す 往 か 九

佞 信 国 田 濃 務 信 絍 臣 玉 見 ね ん =悪者 壊 ま な無 諸 す 出兵する 礼なヤツ 隣 玉 滅 申 諸

国

は

悲

ぼ

ここでも義戦だと趣旨説明

佞

信 あ 濃 た ば ば ŧ ま 始 必 か  $\mathcal{O}$ す 越 ず め た 0 得 後 は 年 郡 後 る から ま 出 ろ 甲 から ま た 私 ゆ と 0 意 存 た ろ、 なんで神様に向か 分 占いの説明なんか、 あ 従 いっしょうけんめいし 往 す 九

#### まだまだがんばる信玄公



阿弥陀三尊像 山梨善光寺

永禄元年(1558)9月



#### 信濃善光寺の阿弥陀如来像を甲府へ移す



派手なパレード付き

信濃はもう武田の領土だ、とアピール



長野善光寺 本堂

#### 時期が集中している



武田1

伊那の二寺の修理おあずけ

永禄元年(1558)閏六月十九日

武田2

戸隠神社の占い願文

永禄元年(1558)七月



善光寺如来の拉致

永禄元年(1558)九月

#### 信玄のPR戦略の特徴

修理おあずけ・占い披露・仏像拉致。とにかく新手法で受けて立つ



#### シンクロしてる・・・

## 独創性で対抗!つぎつぎに新手法

#### 正義は我にあり! 真っ向真剣勝負



# そして激突



# 上杉3 大決戦の三日後

# 上杉謙信が部下に宛てた感謝状

永禄四年(1561)九月十三日 歴代古案

信 面々 候こと、 凶徒数千騎を討ち取り、 の名誉、 世中忘失すべからず候 年来の本望を達し、 この忠功、 大利を得 政虎 また (謙

武田3

大決戦の翌月、武田信玄が京都

の清水寺に宛てた書状

永禄四年(1561)十月晦日 温泉寺所蔵文書

こたびの一戦で勝利を得て、 敵三

散も間近でありましょう。 余を討ち取 りました。怨敵 0 退

は、 すぐにでも土地を寄進申

ようかと思い ま たが、 残敵を

討 ます。

#### 戦のあともPR合戦





#### 川中島は特殊な合戦

戦場の外で、双方が熾烈なPR合戦を繰り広げた。



だから、



# 謎 1

#### なぜ、こんなに有名なの?

勝負つかなかったし その後の歴史を 大きく動かしたわけでもないのに。

#### 川中島は特殊な合戦

戦場の外で、双方が熾烈なPR合戦を繰り広げた。



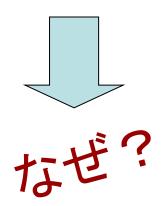
だから、

#### 派手に宣伝したから、有名になり、伝説も生まれたんだ!



#### 川中島は特殊な合戦

戦場の外で、双方が熾烈なPR合戦を繰り広げた。





五年ごとの残存量の推移 表 8 武田氏が出した文書の量 (単位:通) 判 奉書式 印 直 判 状 計 代 年 通 状 式 物 25 50 100 明応 5~大永 2 大永 3~大永 7 享禄 1~天文 1 国力を固めてゆく時期 天文 2~天文 6 天文 7~天文11 天文12~天文16 天文17~天文21 0 : 天文22~弘治 3 1553-64 川中島 永禄 1~永禄 5 5 ! 永禄 6~永禄10 永禄11~元亀 3 判物 判 印 状 天正 1~天正 5 天正 6~天正10 

#### 川中島は特殊な合戦

戦場の外で、双方が熾烈なPR合戦を繰り広げた。

なせ? 上杉も武田も、ともに国力を固める時期

民意を結集し、国をまとめてゆく核として合戦を利用した。

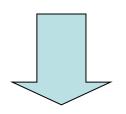




| 第1回 | 1553年8月      |
|-----|--------------|
| 第2回 | 1555年7月-閏10月 |
| 第3回 | 1557年7-8月    |
| 第4回 | 1561年9月10日   |
| 第5回 | 1564年7-8月    |

#### なぜ、同じ場所で5回も 戦ったの?

#### 川中島に進軍しただけで 自慢している



武田・上杉決戦の地は 川中島という共通認識が成立

常 五度目の会戦の際 日三日 陸 永禄七年(1564)八月四 の佐 信 氏に送っ 州犀 川取 た書状 上杉謙信が 日 越え 佐竹文書

に馬を立て候



## 独創性で対抗!つぎつぎに新手法

## 正義は我にあり!真つ向真剣勝負



#### 信玄、謙信、子ども対決!



課題です。

#### 毘沙門天の上杉陣へ

あなたは謙信の甥っ子上杉景勝。 理想家だった叔父のあと、 どんな路線で国づくりしますか? 課題です。

#### 風林火山の武田陣へ

あなたは信玄の実子武田勝頼。 アイディア家だった父のあと、 どんな路線で国づくりしますか?